

令和2年産米の生産に係る今後の対応について

1 現状

- 4月末時点のうるち米の民間在庫量は、本県では前年より2.1万トン多い15.7万トン、全国では前年より13万トン多い205万トンとなっており、高い在庫水準となっている。
- 一方、本県における令和2年産の主食用米の作付面積は、2月末時点で前年産並と見込まれていたが、その後も改善は進まず、直近の4月末現在の取りまとめでは、なお前年産並となっている。
- 今後の主食用米の需給は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により業務用米を中心に大幅に需要が減少していることから、一段と緩和することが懸念される。

2 今後の対応について

- 地域農業再生協議会や認定方針作成者等に対し、別紙チラシ等を活用しながら、需要の裏付けのない主食用米については、非主食用米に転換するよう粘り強く働きかける。

主食用米から非主食用米への転換を！

営農計画書提出の締め切りは6月末です

主食用米の需給が緩和しています

令和2年4月末の本県のうるち米の在庫量は、新たな米政策となった平成30年以降で最も多い15.7万ト(前年比+2.1万ト)となっています。

本県の元年産収穫量は、前年産より2.3万ト多く、この増産相当量がそのまま在庫として積み上がっている状況です。

これに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の減少等により、需要はかつてなく不透明で、米価の下落が懸念される状況です。

農家経営の安定化を図るため、非主食用米への転換を進めリスク分散を図りましょう。

○ 元年産収穫量と民間在庫

(単位:万ト)

	水稻収穫量 (主食用)		民間在庫量 (うるち米)	
	令和元年産	前年差	令和2年4月	前年差
新潟県	57.9	+ 2.3	15.7	+ 2.1
全国	726.1	▲ 6.6	205.0	+ 13.0

今年も主食用米を作っているのか不安になってきた。

他の用途への転換を検討をした方がいいのではないかな。

出典:農林水産省

元年産の収穫量は30年産から減少しているにも関わらず、4月末の民間在庫量は前年と比べ、大きく増加しています。



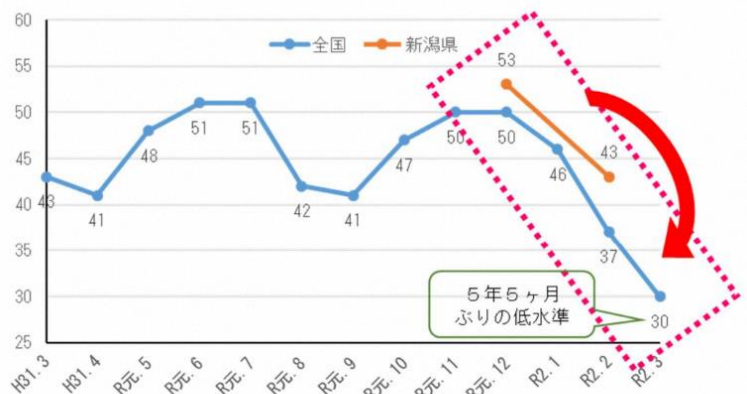
令和2年3月時点の米取引関係者への調査においても、向こう3ヶ月の需給動向は「緩む」と判断されており、5年5ヶ月ぶりの低水準となっています。

新型コロナウイルス感染症等の影響で、一時的な家庭用米の買いだめ需要はあったが、業務用米を中心に需要が減少した。

景気後退が懸念される中で、高価格帯米の販売が心配だ。



主食用米の需給DI (令和2年3月)



※ 全国は(公社)米穀安定供給確保支援機構「米取引関係者の判断に関する調査結果(令和2年3月分)」、新潟県は県農産園芸課の「認定方針作成者の令和2年産作付動向等に関する調査結果(令和2年2月)」を元に作成

「新潟米マンスリーレポート (R2.4)」

新潟県農業再生協議会

J Aグループ新潟・新潟県主食集荷商業協同組合・新潟県

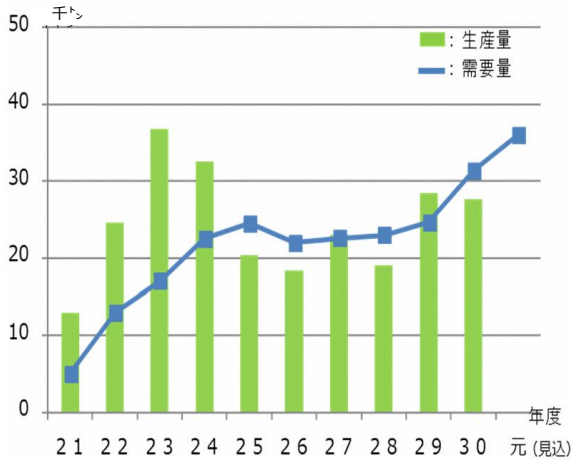
需要のある非主食用米等への転換が必要です

主食用米から需要のある非主食用米等（加工用米・米粉用米・輸出用米・飼料用米等）へ転換することで、需給バランスの適正化による**価格の安定**と、**手取りの確保**を目指しましょう。

米粉用米は、近年、需要が拡大しており、平成30年度においては「**需要量 > 生産量**」となっています。

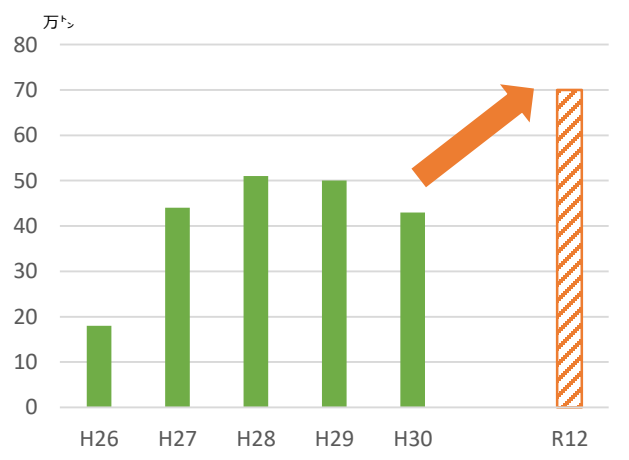
飼料用米は、国の基本計画において、『**需要に応えられるよう、生産拡大を進める**』とし、**令和12年度に70万トンの生産目標**が設定されました。

米粉用米の生産量・需要量



農林水産省「米穀の新たな用途への利用の促進に関する基本方針について（R2.4）」

飼料用米の生産量



農林水産省「米穀の新たな用途への利用の促進に関する基本方針について（R2.4）」を元に作成

各種支援における対象用途

交付元	支援策	加工用米	飼料用米	WCS用稲	米粉用米	輸出用米	
国	戦略作物助成	○	○	○	○		
	産地交付金	新市場開拓用米作付					○
		複数年契約		○		○	
		転換作物拡大加算(※)	○	○	○	○	○
		高収益作物等拡大加算(※)	○				○
県	産地交付金（複数年契約）	○			(○)	○	
地域	産地交付金	各地域での用途設定による					

※：地域農業再生協議会を算定単位とし、協議会に対する交付金を加算

支援の単価や適用要件は様々のため、不明な点は最寄りの地域農業再生協議会にお問い合わせをお願いします。

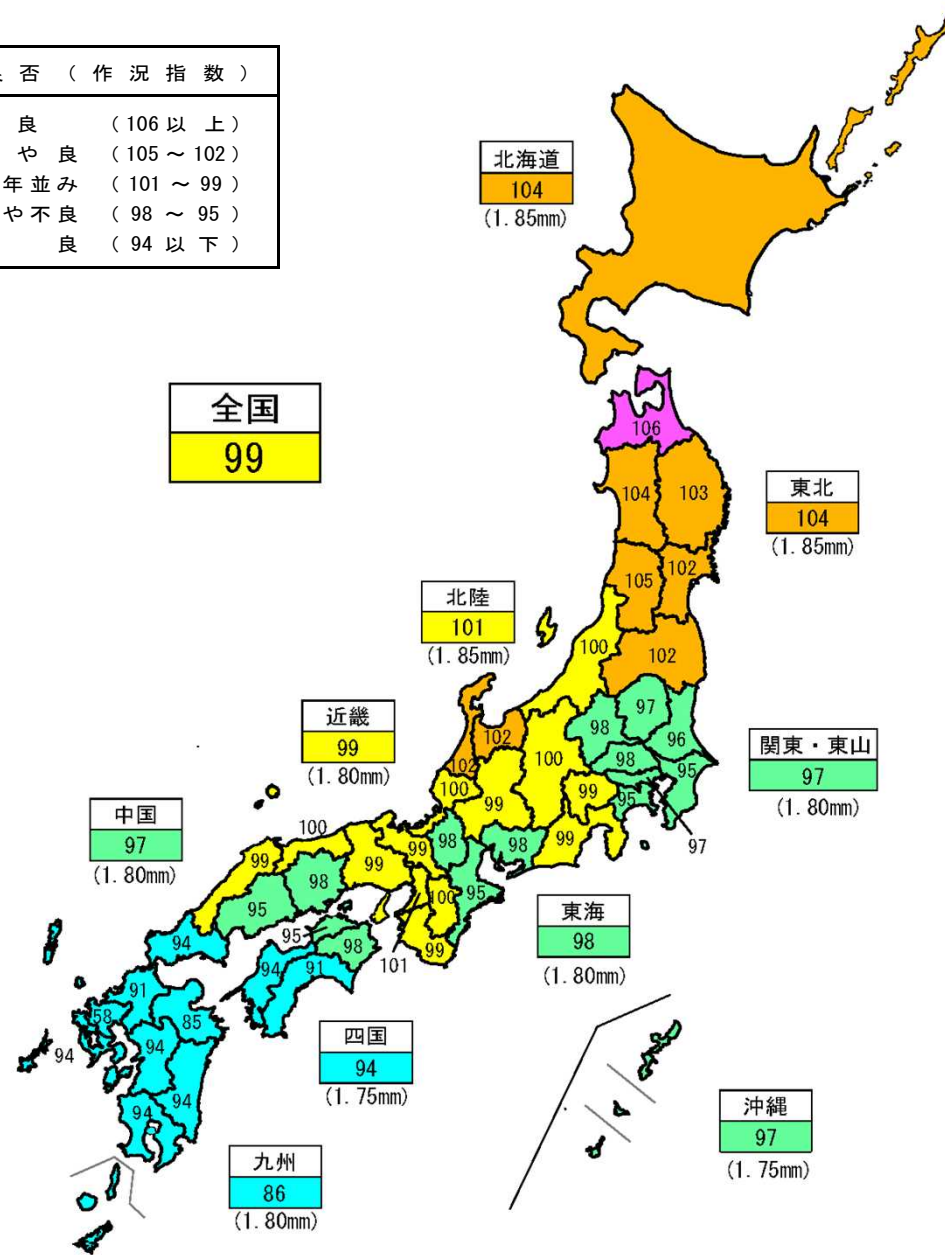


米をめぐる状況について

令和2年5月
農林水産省

全国農業地域・都道府県別作況指数(令和元年12月10日公表(最終))【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

作柄の良否(作況指数)	
■	良 (106以上)
■	やや良 (105～102)
■	平年並み (101～99)
■	やや不良 (98～95)
■	不良 (94以下)



注：1 全国農業地域の作況指数の下に記載されている括弧内の数値は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である。
 2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培(第一期稲)、普通栽培(第二期稲)を合算したものである。

令和元年産水稻の作付面積及び収穫量(令和元年12月10日公表(最終))

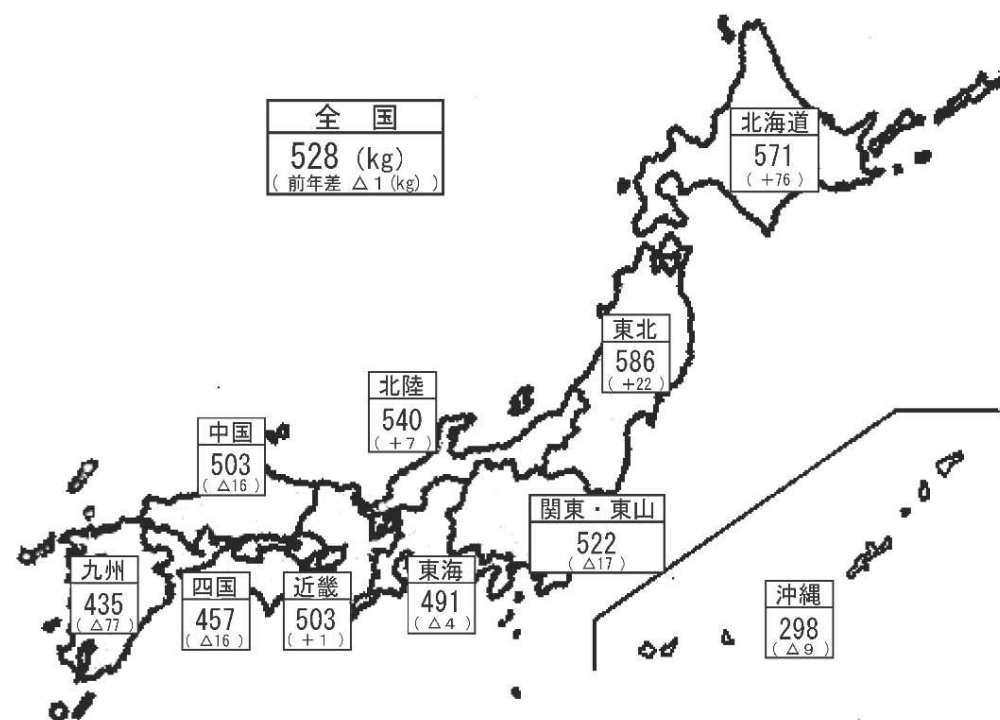
- 令和元年産の全国の主食用米の作付面積は、生産者・産地が主体的に作付判断を行った結果、都道府県ごとの増減があるものの、前年産(138.6万ha)から0.7万ha減少の137.9万haとなった。
- 全国の10a当たり収量は528kg(前年産529kg)で、作況指数は「99」(前年産「98」)、主食用米の収穫量は726万トン(前年産733万トン)となった。

令和元年産水稻の作付面積及び収穫量

全国 農業地域	作付面積(子実用)			10a当たり収量		収穫量(子実用)			参 考		
	実数 ①	前年産 との比較		実数 ②	前年産 との比較		実数 ③=①×②	前年産 との比較	主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②	作況 指数
		対差	対比		対差	対比					
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,469,000	△1,000	100	528	△1	7,762,000	△18,000	100	1,379,000	7,261,000	99
北 海 道	103,000	△1,000	99	571	76	588,100	73,300	114	97,000	553,900	104
東 北	382,000	2,900	101	586	22	2,239,000	102,000	105	344,600	2,015,000	104
北 陸	206,500	900	100	540	7	1,115,000	19,000	102	186,400	1,007,000	101
関東・東山	271,100	800	100	522	△17	1,414,000	△43,000	97	258,400	1,348,000	97
東 海	93,100	△300	100	491	△4	457,100	△5,300	99	90,500	444,800	98
近 畿	102,600	△500	100	503	1	516,400	△1,100	100	99,000	498,000	99
中 国	102,100	△1,600	98	503	△16	513,200	△24,600	95	99,400	499,800	97
四 国	48,300	△1,000	98	457	△16	220,700	△12,700	95	47,800	218,500	94
九 州	160,000	△400	100	435	△77	696,400	△124,900	85	155,100	674,300	86
沖 縄	677	△39	95	298	△9	2,020	△180	92	665	1,980	97

注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

水稻の全国農業地域別10a当たり収量



令和元/2年及び令和2/3年の主食用米等の需給見通し(令和2年3月公表 基本指針)

令和元/2年

(単位: 万トン)

令和元年6月末民間在庫量	A	189
令和元年産主食用米等生産量	B	726
令和元/2年主食用米等供給量計	C=A+B	915
令和元/2年主食用米等需要量	D	727
令和2年6月末民間在庫量	E=C-D	187

令和2/3年

(単位: 万トン)

令和2年6月末民間在庫量	E	187
令和2年産主食用米等生産量	F	709 ~ 717
令和2/3年主食用米等供給量計	G=E+F	897 ~ 904
令和2/3年主食用米等需要量	H	717
令和3年6月末民間在庫量	I=G-H	180 ~ 187

<令和2年産主食用米等生産量の見通し>

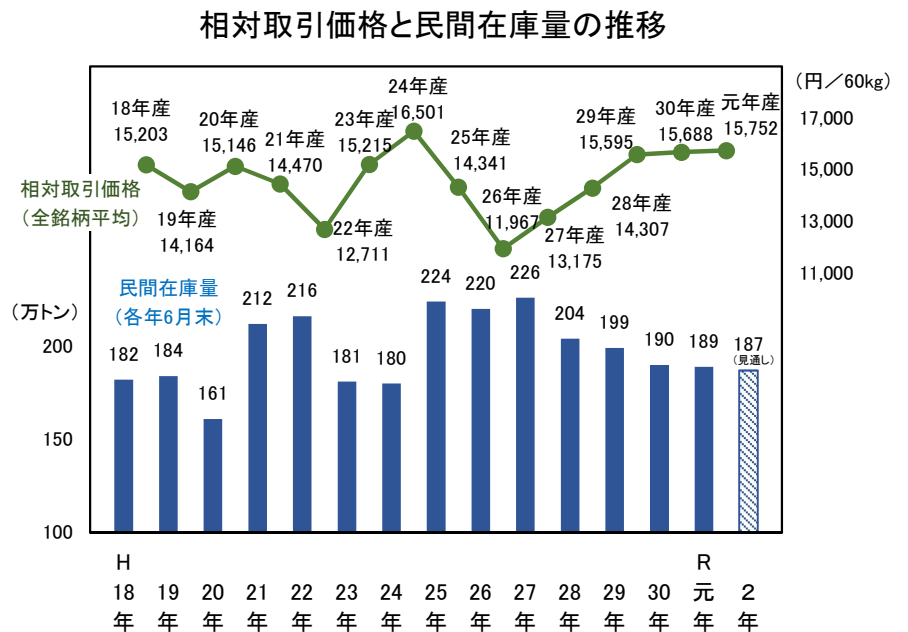
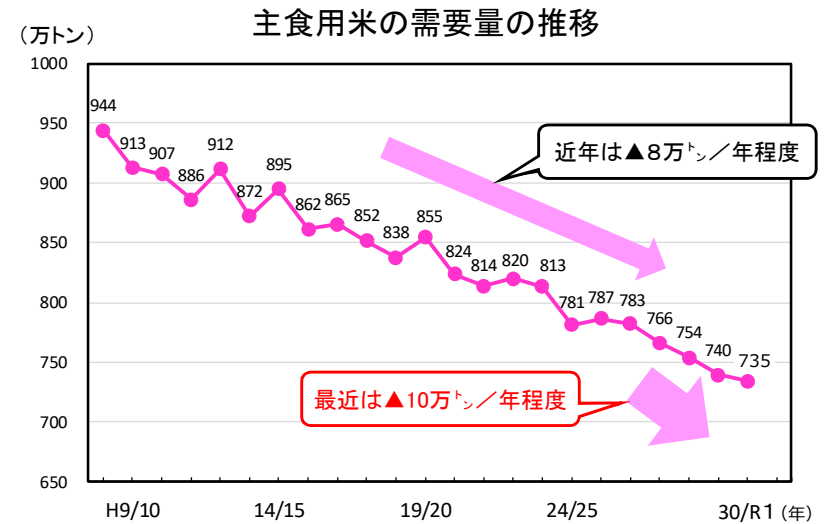
令和3年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準(180万トン)となる「709万トン」から主食用米等の需要量の見通しと同水準の「717万トン」までと8万トンの幅をもって設定。

(参考) 令和元年産(平成31年3月基本指針)との比較

元年産 718万トン~726万トン



2年産 709万トン~717万トン



注: 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月(元年産は令和2年2月)までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

米の契約・販売状況

集荷・契約・販売数量(累計、うるち米、令和2年3月末現在)(速報)

	集荷数量		契約数量		販売数量		参考:前年同月比 (30年産の同時期との比較)		
	①	②	②/①	③	③/①	集荷数量	契約数量	販売数量	
	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(%)	(%)	
北海道	333.1	308.9	93%	160.3	48%	111%	105%	117%	
なつぼし	158.2	152.9	97%	74.0	47%	117%	119%	115%	
ゆめぴりか	80.2	72.3	90%	42.6	53%	108%	102%	150%	
きらら397	37.6	34.8	93%	11.7	31%	114%	116%	126%	
青森	153.3	122.6	80%	59.9	39%	106%	107%	105%	
まっくら	109.3	83.8	77%	40.2	37%	110%	111%	104%	
つがるロマン	34.3	29.5	86%	13.7	40%	99%	101%	123%	
岩手	135.8	130.1	96%	49.5	36%	106%	104%	102%	
ひとめぼれ	104.0	98.6	95%	37.7	36%	105%	101%	98%	
あきたこまち	15.6	15.5	99%	5.4	34%	105%	117%	125%	
銀河のしずく	6.7	6.6	99%	3.0	45%	
宮城	171.0	154.9	91%	58.0	34%	110%	106%	96%	
ひとめぼれ	133.8	122.7	92%	41.8	31%	106%	100%	86%	
つや姫	12.0	11.0	92%	5.7	48%	113%	119%	127%	
ササニシキ	8.4	7.5	89%	3.4	40%	108%	108%	101%	
秋田	271.1	243.3	90%	125.2	46%	109%	104%	113%	
あきたこまち	220.3	202.3	92%	108.7	49%	110%	106%	113%	
めんこいな	13.4	11.3	85%	5.4	40%	90%	85%	130%	
ひとめぼれ	21.2	16.9	80%	5.9	28%	112%	98%	108%	
山形	177.2	165.7	94%	83.0	47%	110%	105%	103%	
はえぬき	97.5	95.7	98%	43.4	45%	104%	105%	100%	
つや姫	39.2	34.9	89%	20.7	53%	118%	107%	109%	
ひとめぼれ	14.7	12.4	84%	7.5	51%	108%	101%	103%	
福島	168.0	135.5	81%	56.7	34%	107%	103%	132%	
コシヒカリ中通り	46.2	35.9	78%	14.1	31%	101%	102%	98%	
コシヒカリ会津	44.6	39.3	88%	15.3	34%	111%	94%	150%	
コシヒカリ浜通り	7.1	8.4	118%	1.8	26%	96%	123%	109%	
ひとめぼれ	30.1	24.2	80%	9.5	32%	102%	100%	109%	
天のつぶ	24.6	19.5	79%	8.2	33%	120%	127%	268%	
茨城	68.7	51.2	74%	38.5	56%	99%	107%	101%	
コシヒカリ	50.8	35.5	70%	24.4	48%	99%	106%	101%	
あきたこまち	9.7	8.9	91%	8.9	91%	98%	105%	105%	
あさひの夢	1.1	0.5	47%	0.5	47%	
栃木	125.2	98.0	78%	41.4	33%	92%	90%	96%	
コシヒカリ	93.7	74.3	79%	30.7	33%	88%	85%	92%	
あさひの夢	8.8	7.2	82%	1.8	21%	93%	108%	78%	
ときぎの星	12.8	9.9	77%	4.8	37%	
群馬	22.0	20.8	95%	12.1	55%	88%	105%	143%	
あさひの夢	16.2	15.1	93%	8.5	52%	92%	108%	153%	
ゆめまつり	3.8	3.7	98%	2.8	73%	79%	116%	141%	
埼玉	17.8	15.3	86%	7.8	44%	97%	96%	111%	
彩のかがやき	7.9	6.5	82%	3.1	39%	89%	82%	84%	
コシヒカリ	3.7	3.4	90%	1.5	41%	80%	78%	86%	
彩のきずな	4.5	4.1	92%	2.0	45%	128%	151%	264%	
千葉	73.6	68.2	93%	61.6	84%	96%	113%	128%	
コシヒカリ	35.0	29.4	84%	28.0	80%	96%	106%	127%	
ふさごがね	17.4	17.5	101%	14.9	86%	101%	137%	166%	
ふさおとめ	16.5	15.4	93%	14.3	87%	94%	103%	111%	
東京	0.0	0.0	100%	0.0	100%	50%	50%	50%	
神奈川	1.8	1.0	58%	1.0	58%	78%	77%	77%	
山梨	5.9	2.2	38%	2.2	38%	101%	87%	87%	
コシヒカリ	5.1	2.0	39%	2.0	39%	102%	94%	94%	
長野	69.2	68.0	98%	28.8	42%	104%	104%	104%	
コシヒカリ	54.7	54.3	99%	22.4	41%	104%	104%	102%	
あきたこまち	7.6	7.3	96%	2.9	39%	102%	102%	114%	
静岡	6.2	3.6	57%	3.1	50%	103%	105%	94%	
コシヒカリ	4.1	2.4	58%	2.0	50%	102%	109%	93%	
きぬむすめ	0.8	0.5	56%	0.5	56%	111%	125%	125%	
あいちのおお	0.8	0.3	46%	0.3	46%	96%	74%	74%	

	集荷数量		契約数量		販売数量		参考:前年同月比 (30年産の同時期との比較)		
	①	②	②/①	③	③/①	集荷数量	契約数量	販売数量	
	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(%)	(%)	
新潟	278.7	260.3	93%	141.6	51%	108%	105%	103%	
コシヒカリ一般	133.1	126.6	95%	67.4	51%	107%	104%	94%	
コシヒカリ魚沼	33.0	23.8	72%	17.5	53%	108%	100%	98%	
コシヒカリ佐渡	14.4	14.2	98%	8.3	58%	120%	117%	115%	
コシヒカリ岩船	12.6	12.6	100%	5.4	43%	121%	113%	96%	
こしいぶき	45.3	43.9	97%	21.8	48%	99%	102%	121%	
富山	89.5	82.3	92%	56.4	63%	100%	96%	115%	
コシヒカリ	64.5	61.1	95%	43.2	67%	95%	93%	109%	
てんたかく	9.3	8.7	93%	5.3	57%	113%	115%	104%	
石川	25.4	24.1	95%	11.5	45%	96%	94%	125%	
コシヒカリ	14.0	13.5	96%	6.2	44%	86%	82%	132%	
ゆめみづほ	4.3	4.3	101%	1.7	40%	80%	95%	88%	
福井	68.4	51.1	75%	38.5	56%	99%	78%	111%	
コシヒカリ	27.8	17.3	62%	14.0	50%	93%	63%	102%	
ハナエチゼン	20.6	17.9	87%	15.8	77%	103%	90%	124%	
あきさかり	7.5	4.4	58%	3.1	41%	
岐阜	21.4	21.1	99%	9.1	43%	114%	124%	95%	
ハツシモ	9.9	8.9	90%	2.9	29%	140%	113%	98%	
コシヒカリ	6.4	5.7	89%	2.8	43%	98%	115%	86%	
あさひの夢	0.8	0.7	99%	0.3	33%	
愛知	30.9	27.6	89%	13.9	45%	97%	91%	91%	
あいちのおお	16.7	16.2	97%	6.2	37%	99%	96%	88%	
コシヒカリ	9.6	8.0	84%	5.2	55%	99%	87%	99%	
大地の風	1.3	1.4	111%	0.6	46%	99%	112%	84%	
三重	25.1	22.9	92%	13.4	53%	90%	87%	96%	
コシヒカリ一般	13.4	13.2	98%	6.8	51%	87%	88%	89%	
コシヒカリ伊賀	5.5	4.6	83%	3.2	58%	97%	83%	123%	
キヌヒカリ	1.8	1.2	67%	0.4	24%	86%	61%	53%	
滋賀	49.7	46.3	93%	25.4	51%	90%	86%	94%	
コシヒカリ	17.5	17.3	99%	9.0	51%	87%	89%	88%	
キヌヒカリ	8.8	8.0	91%	4.7	54%	85%	81%	92%	
みずががみ	9.6	8.8	91%	5.4	57%	
京都	8.3	9.2	110%	4.0	47%	85%	100%	81%	
コシヒカリ	4.7	5.6	117%	2.5	52%	85%	97%	89%	
キヌヒカリ	1.9	2.0	106%	0.6	33%	78%	84%	44%	
ヒノヒカリ	1.0	0.8	78%	0.5	47%	105%	100%	149%	
大阪	-	-	-	-	-	
兵庫	40.2	35.7	89%	20.4	51%	101%	101%	98%	
コシヒカリ	10.6	11.0	104%	6.7	64%	97%	103%	110%	
ヒノヒカリ	3.5	2.7	77%	1.3	38%	99%	90%	86%	
キヌヒカリ	2.8	2.4	86%	1.5	55%	86%	80%	106%	
奈良	8.4	4.4	52%	4.4	52%	107%	94%	94%	
ヒノヒカリ	6.7	3.4	51%	3.4	51%	110%	100%	100%	
和歌山	0.9	0.9	100%	0.9	100%	94%	94%	94%	
鳥取	22.2	21.3	96%	10.8	49%	100%	100%	98%	
きぬむすめ	7.8	7.7	99%	3.6	46%	93%	98%	111%	
コシヒカリ	7.2	6.9	96%	3.3	47%	95%	93%	82%	
ひとめぼれ	5.2	5.2	100%	3.1	59%	88%	90%	85%	
島根	34.5	35.0	101%	16.4	47%	92%	99%	98%	
コシヒカリ	13.8	14.6	105%	7.1	51%	84%	93%	91%	
きぬむすめ	13.8	13.3	96%	5.7	41%	97%	100%	107%	
つや姫	4.3	4.3	100%	2.2	52%	96%	99%	105%	
岡山	26.2	26.1	99%	9.5	36%	141%	136%	110%	
アケボノ	7.7	7.7	100%	1.9	24%	185%	187%	106%	
あきたこまち	2.0	2.2	108%	1.1	55%	141%	128%	119%	
ヒノヒカリ	2.7	2.6	94%	0.6	22%	130%	121%	76%	
広島	29.2	36.0	123%	16.7	57%	90%	100%	92%	
コシヒカリ	12.1	16.2	134%	7.6	63%	88%	106%	91%	
あきさかり	6.2	7.7	124%	3.3	53%	106%	132%	108%	
あきろまん	2.5	3.6	143%	1.1	42%	82%	108%	77%	

	集荷数量		契約数量		販売数量		参考:前年同月比 (30年産の同時期との比較)		
	①	②	②/①	③	③/①	集荷数量	契約数量	販売数量	
	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(%)	(%)	
山口	32.4	27.4	85%	13.6	42%	107%	96%	103%	
コシヒカリ	9.6	8.6	90%	4.5	47%	114%	107%	107%	
ひとめぼれ	7.7	6.8	88%	3.9	50%	108%	98%	103%	
ヒノヒカリ	6.7	5.4	82%	2.3	35%	115%	99%	103%	
徳島	5.6	4.3	77%	3.9	70%	115%	126%	133%	
コシヒカリ	2.6	2.3	91%	2.3	90%	112%	124%	130%	
キヌヒカリ	0.8	0.5	62%	0.4	45%	60%	67%	57%	
香川	19.1	19.1	100%	7.7	40%	91%	98%	92%	
コシヒカリ	6.5	6.5	100%	3.5	54%	87%	91%	106%	
ヒノヒカリ	5.8	5.8	100%	1.8	31%	89%	89%	76%	
おいでまい	3.8	3.8	100%	1.6	41%	92%	99%	93%	
愛媛	8.1	6.7	83%	5.3	66%	83%	89%	92%	
コシヒカリ	3.3	3.1	97%	2.3	71%	83%	98%	92%	
ヒノヒカリ									

米の民間在庫の推移

- 令和2年3月末の出荷及び販売段階における民間在庫は、元年産の主食用の生産量が7万トン減少している中、対前年同月比+7万トンの234万トンとなっている。また、流通段階別でみると出荷段階で対前年比+2万トン、販売段階で+5万トンとなっている。
- 出荷段階の対前年比+2万トンについては、作況の良かった東日本主産県において集荷が前年よりも進んだことが影響していると考えられる。
- 販売段階の+5万トンについては、卸売業者から小売向けの数量が落ち込んでいる状況。

【全国段階の民間在庫の推移(うるち米)(速報)】

【出荷+販売段階】 (単位:万玄米トン)													【出荷段階】 (単位:万玄米トン)												
	当年7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月		当年7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147	29/30年	84	66	124	231	262	257	240	218	186	158	130	103
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21	対前年差	▲4	▲4	▲21	▲30	▲23	▲19	▲20	▲18	▲14	▲13	▲12	▲9
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135	29年産米	0	11	89	211	247	248	233	213	183	155	128	102
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8	1年古米(28年産)	83	54	34	19	13	9	6	4	3	2	2	1
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141	30/元年	76	63	120	236	252	249	235	215	183	150	127	101
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7	対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲5	▲3	▲4	▲7	▲4	▲2
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135	30年産米	1	14	90	219	240	240	228	211	180	148	125	100
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4	1年古米(29年産)	74	48	30	15	11	7	5	4	3	2	2	1
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134	元/2年	74	55	128	239	259	263	244	221	185			
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6	対前年差	▲2	▲8	+8	+3	+7	+15	+9	+6	+2			
29年産米	1	15	104	241	282	287	270	249	223	192	160	129	元年産米	0	7	99	223	248	256	238	217	182			
1年古米(28年産)	103	71	48	38	29	20	14	11	8	6	5	4	1年古米(30年産)	73	47	28	14	9	6	4	3	2			
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131													
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3													
30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126													
1年古米(29年産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4													
元/2年	99	79	161	295	317	320	295	268	234																
対前年差	▲3	▲9	+10	+7	+11	+19	+14	+9	+7																
元年産米	0	10	115	255	284	296	276	252	222																
1年古米(30年産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7																

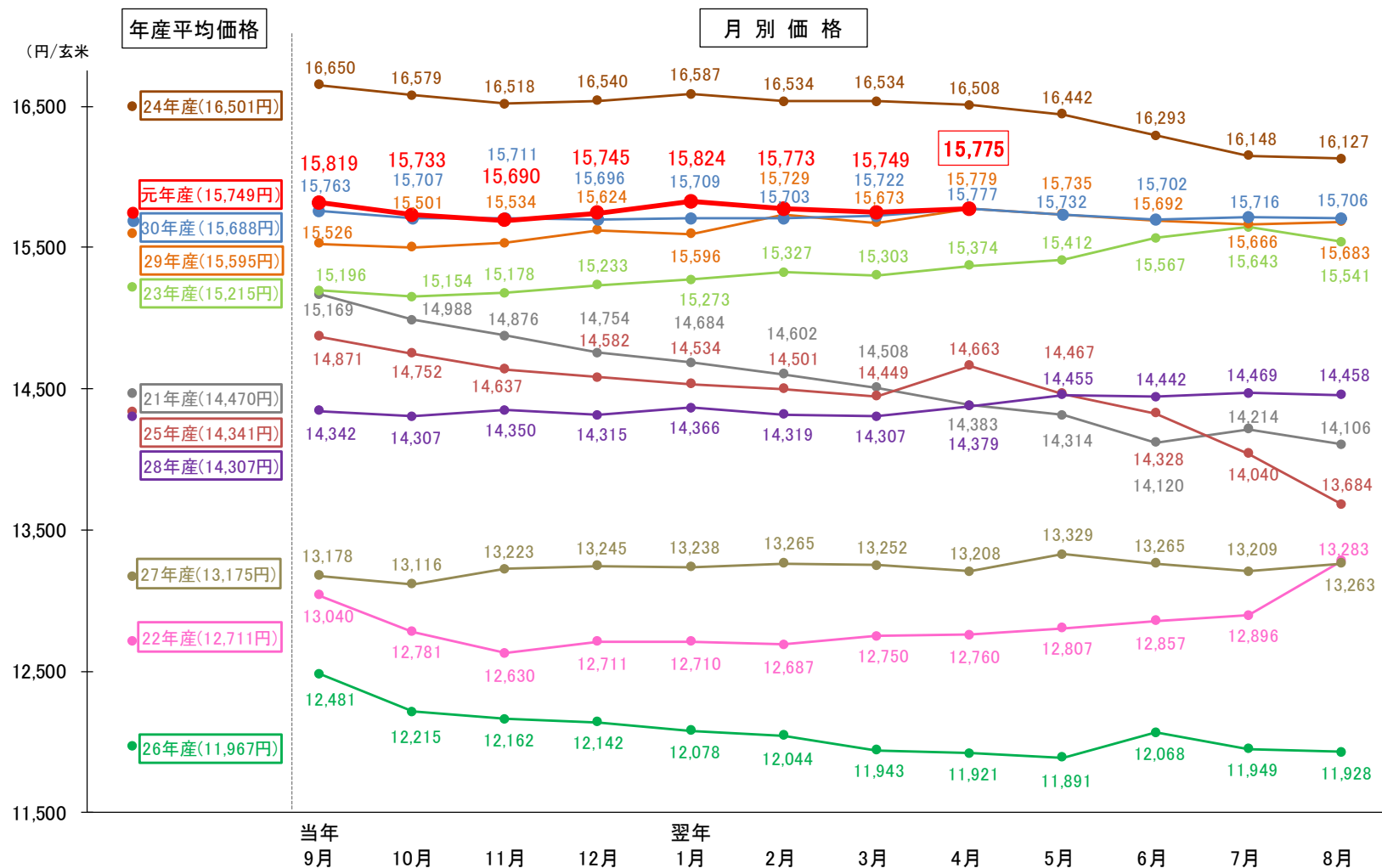
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 期間については、元/2年であれば、令和元年7月～2年6月である。
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

相対取引価格の推移(平成21年産～令和元年産)

○ 令和元年産米の令和2年4月の相対取引価格は、全銘柄平均で15,775円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+61円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移(税込) (全銘柄平均価格)



資料：農林水産省調べ

注1：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、令和元年10月以降は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

注2：グラフの左側は各年産の通年平均価格（当該年産の出回りから翌年10月（令和元年産は令和2年4月）まで）、右側は月ごとの価格の推移。

令和元年産米の相対取引価格(令和2年4月までの年産平均価格)

(単位：円/玄米60kg(税込))

産地品種銘柄		令和元年産 〔出回り～ 2年4月〕	平成30年産 〔出回り～ 元年10月〕	価格差 ①-②
		①	②	①-②
北海道	ななつぼし	15,880	15,996	▲ 116
北海道	ゆめぴりか	16,813	16,266	+ 547
北海道	きらら397	15,442	15,527	▲ 85
青森	まっくら	14,807	14,758	+ 49
青森	つがるロマン	15,057	15,075	▲ 18
岩手	ひとめぼれ	15,386	15,337	+ 49
岩手	あきたこまち	15,251	15,255	▲ 4
岩手	銀河のしずく	16,258	-	-
宮城	ひとめぼれ	15,526	15,535	▲ 9
宮城	つや姫	15,896	15,822	+ 74
宮城	ササニシキ	15,786	15,767	+ 19
秋田	あきたこまち	15,839	15,843	▲ 4
秋田	めんこいな	14,613	14,784	▲ 171
秋田	ひとめぼれ	15,268	15,433	▲ 165
山形	はえぬき	15,450	15,407	+ 43
山形	つや姫	18,575	18,347	+ 228
山形	ひとめぼれ	16,316	15,970	+ 346
福島	コシヒカリ(中通り)	15,405	15,463	▲ 58
福島	コシヒカリ(会津)	15,950	15,528	+ 422
福島	コシヒカリ(浜通り)	15,008	15,096	▲ 88
福島	ひとめぼれ	14,953	14,981	▲ 28
福島	天のつぶ	14,561	14,609	▲ 48
茨城	コシヒカリ	15,659	15,544	+ 115
茨城	あきたこまち	15,486	15,108	+ 378
茨城	あさひの夢	13,696	-	-
栃木	コシヒカリ	15,655	15,596	+ 59
栃木	あさひの夢	14,881	14,789	+ 92
栃木	とちぎの星	15,008	-	-
群馬	あさひの夢	14,936	15,087	▲ 151
群馬	ゆめまつり	14,876	14,916	▲ 40
埼玉	彩のかがやき	14,945	15,169	▲ 224
埼玉	コシヒカリ	15,260	15,480	▲ 220
埼玉	彩のきずな	14,919	15,170	▲ 251
千葉	コシヒカリ	15,778	15,517	+ 261
千葉	ふさこがね	14,755	14,638	+ 117
千葉	ふさおとめ	14,886	14,764	+ 122
山梨	コシヒカリ	18,384	18,038	+ 346
長野	コシヒカリ	16,036	16,087	▲ 51
長野	あきたこまち	15,322	15,264	+ 58
静岡	コシヒカリ	16,159	15,971	+ 188

産地品種銘柄		令和元年産 〔出回り～ 2年4月〕	平成30年産 〔出回り～ 元年10月〕	価格差 ①-②
		①	②	①-②
静岡	きぬむすめ	15,123	14,951	+ 172
静岡	あいちのかおり	15,229	14,936	+ 293
新潟	コシヒカリ(一般)	17,356	17,042	+ 314
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,931	21,147	▲ 216
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,990	17,520	+ 470
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,980	17,460	+ 520
新潟	こしいぶき	15,151	15,100	+ 51
富山	コシヒカリ	16,002	15,936	+ 66
富山	てんたかく	14,882	14,750	+ 132
石川	コシヒカリ	15,952	15,889	+ 63
石川	ゆめみづほ	14,788	14,634	+ 154
福井	コシヒカリ	16,356	16,145	+ 211
福井	ハナエチゼン	15,072	14,924	+ 148
福井	あきさかり	15,146	-	-
岐阜	ハツシモ	15,381	15,357	+ 24
岐阜	コシヒカリ	16,165	15,933	+ 232
岐阜	あさひの夢	14,734	-	-
愛知	あいちのかおり	14,783	14,806	▲ 23
愛知	コシヒカリ	15,542	15,410	+ 132
愛知	大地の風	14,975	14,970	+ 5
三重	コシヒカリ(一般)	15,556	15,390	+ 166
三重	コシヒカリ(伊賀)	15,954	15,882	+ 72
三重	キヌヒカリ	14,964	14,813	+ 151
滋賀	コシヒカリ	15,833	15,646	+ 187
滋賀	キヌヒカリ	14,937	14,765	+ 172
滋賀	みずかがみ	15,797	-	-
京都	コシヒカリ	16,209	15,788	+ 421
京都	キヌヒカリ	15,223	14,910	+ 313
京都	ヒノヒカリ	-	15,560	-
兵庫	コシヒカリ	16,179	16,013	+ 166
兵庫	ヒノヒカリ	14,825	14,786	+ 39
兵庫	キヌヒカリ	14,838	14,823	+ 15
奈良	ヒノヒカリ	15,737	15,522	+ 215
鳥取	きぬむすめ	14,792	14,682	+ 110
鳥取	コシヒカリ	15,493	15,461	+ 32
鳥取	ひとめぼれ	14,702	14,494	+ 208
島根	コシヒカリ	15,458	15,743	▲ 285
島根	きぬむすめ	14,532	14,828	▲ 296
島根	つや姫	15,246	15,598	▲ 352
岡山	アケボノ	14,887	14,952	▲ 65

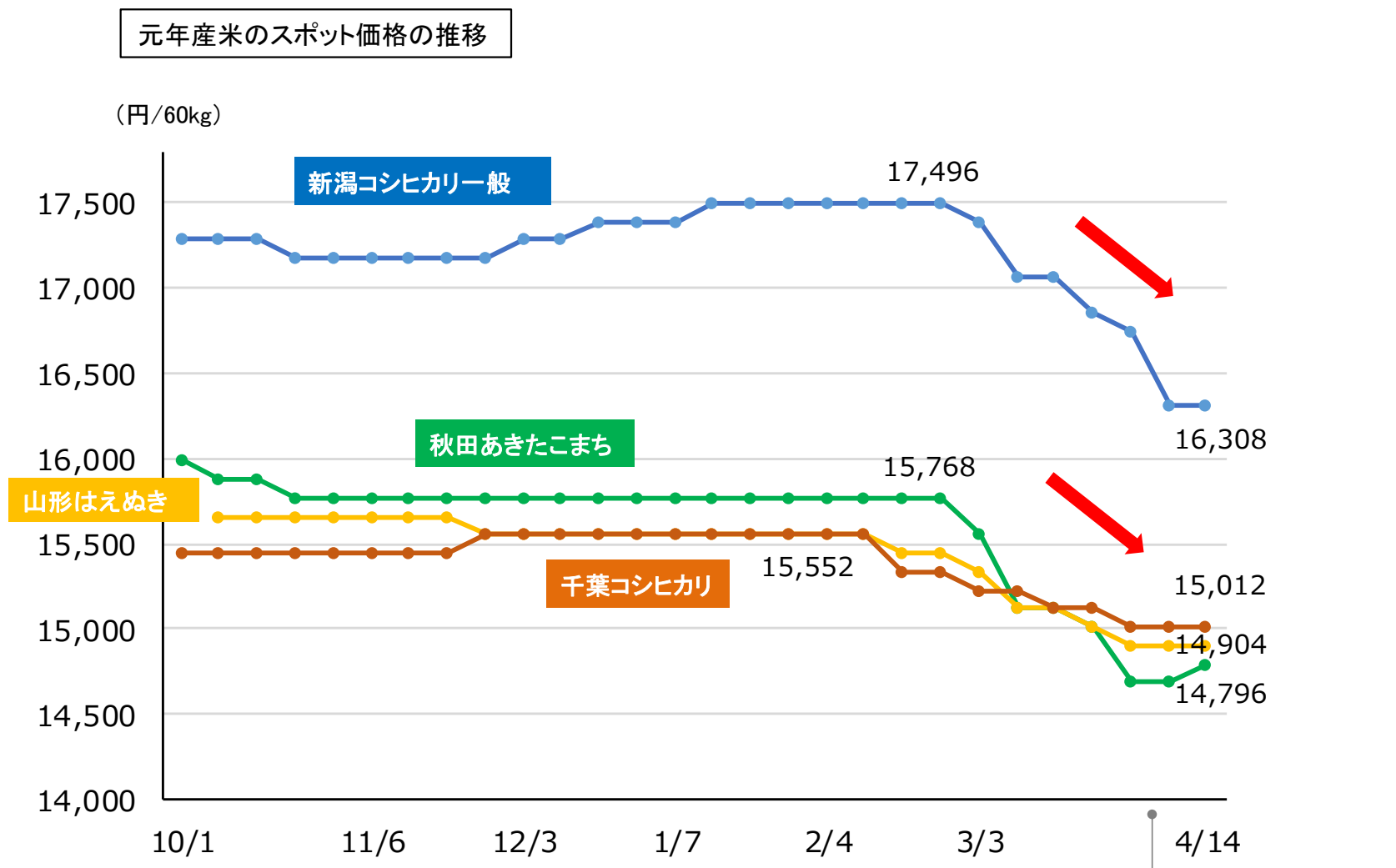
産地品種銘柄		令和元年産 〔出回り～ 2年4月〕	平成30年産 〔出回り～ 元年10月〕	価格差 ①-②
		①	②	①-②
岡山	あきたこまち	15,469	15,060	+ 409
岡山	ヒノヒカリ	15,418	15,276	+ 142
広島	コシヒカリ	15,535	15,407	+ 128
広島	あきさかり	14,671	14,458	+ 213
広島	あきろまん	14,754	14,254	+ 500
山口	コシヒカリ	15,509	15,265	+ 244
山口	ひとめぼれ	14,628	14,406	+ 222
山口	ヒノヒカリ	14,618	14,405	+ 213
徳島	コシヒカリ	15,757	15,861	▲ 104
徳島	キヌヒカリ	15,336	15,102	+ 234
香川	コシヒカリ	15,289	15,251	+ 38
香川	ヒノヒカリ	14,776	14,785	▲ 9
香川	おいでまい	15,396	15,368	+ 28
愛媛	コシヒカリ	15,584	15,542	+ 42
愛媛	ヒノヒカリ	15,066	15,182	▲ 116
愛媛	あきたこまち	14,930	14,925	+ 5
高知	コシヒカリ	14,920	15,171	▲ 251
高知	ヒノヒカリ	14,541	14,358	+ 183
福岡	夢つくし	16,305	16,265	+ 40
福岡	ヒノヒカリ	15,420	15,434	▲ 14
福岡	元気つくし	16,113	16,082	+ 31
佐賀	夢しずく	14,869	14,435	+ 434
佐賀	さかびより	-	15,039	-
佐賀	ヒノヒカリ	-	14,243	-
長崎	にこまる	15,294	15,797	▲ 503
長崎	ヒノヒカリ	14,974	15,476	▲ 502
長崎	コシヒカリ	15,919	16,378	▲ 459
熊本	ヒノヒカリ	15,315	15,165	+ 150
熊本	森のくまさん	15,325	14,932	+ 393
熊本	コシヒカリ	15,902	15,700	+ 202
大分	ヒノヒカリ	15,671	15,636	+ 35
大分	ひとめぼれ	15,898	15,751	+ 147
大分	つや姫	15,912	-	-
宮崎	コシヒカリ	15,946	15,458	+ 488
宮崎	ヒノヒカリ	15,860	16,013	▲ 153
鹿児島	ヒノヒカリ	16,342	16,128	+ 214
鹿児島	あきほなみ	17,042	16,940	+ 102
鹿児島	コシヒカリ	16,670	16,307	+ 363
全銘柄平均価格		15,749	15,688	+ 61

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和元年産は令和2年4月まで)であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者(年間の販売数量5,000トン以上等)。

注2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、令和元年10月以降は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

注3：「-」について、令和元年産は、当該月までの取引数量の累計が100トン未満であり、価格の公表を行っていないもの。平成30年産は、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄である。

令和元年産米のスポット価格の推移



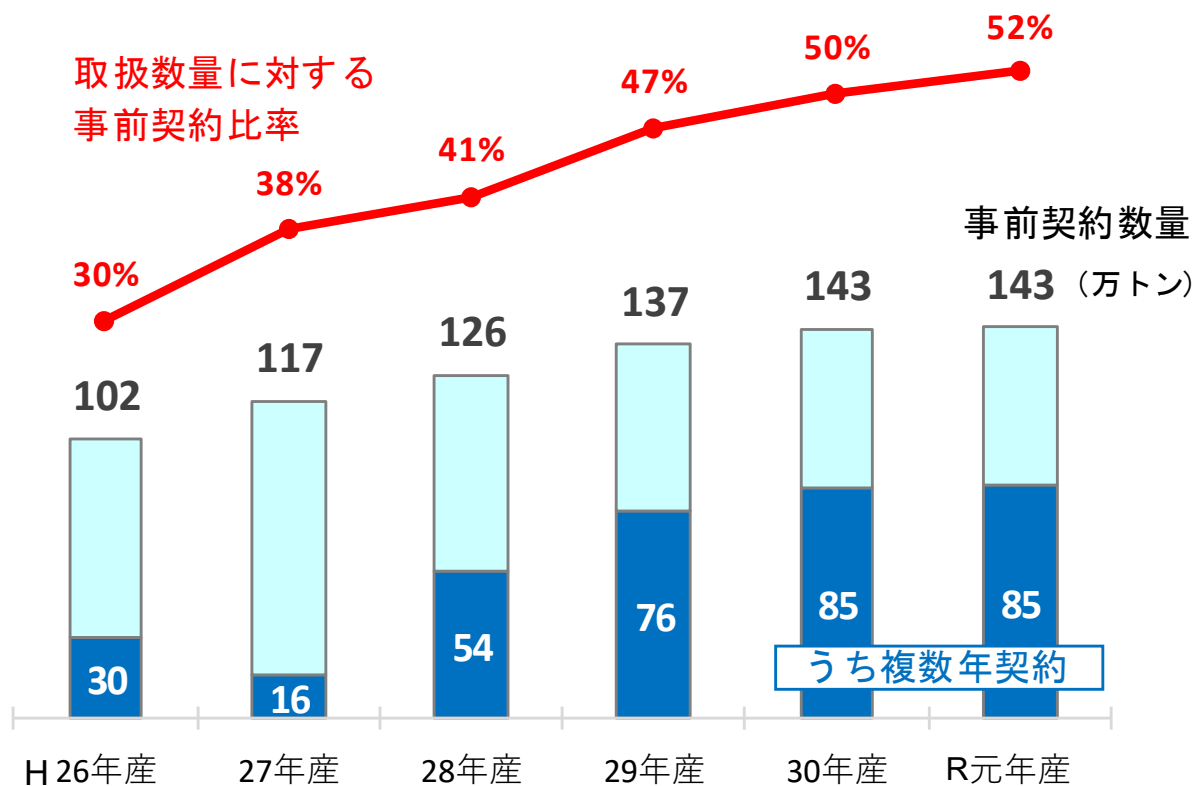
資料：「米穀市況速報」（関東相場、東京着地基準、下限値）の価格（税込）である。

(4/7 緊急事態宣言発令)

主食用米の事前契約・複数年契約の状況

- 集出荷業者と卸・小売業者との間の取引においては、近年、主食用米の事前契約・複数年契約の数量が増加してきており、30年産では集出荷業者の取扱量（集荷量）全体の約5割を占める。
- 他方、元年産の事前契約数量は令和2年2月末現在で143万トンと、30年産米と同数量の契約。

【近年の主食用米の事前契約数量の推移】



この事前契約数量は、農水省が一定規模以上の集出荷業者を対象に調査しているもので、「収穫前の段階において確認書等により販売数量が決定している数量」(脚注参照)。

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」(報告対象：年間取扱量5,000トン以上の集出荷事業者)
注：1 「事前契約数量」は、収穫前の段階において確認書等により販売数量が決定している数量。
2 「複数年契約」の契約期間は3年間が大宗である。
3 30年産までは確定値、元年産は2年2月末現在の速報値。

事前契約の現状、集出荷業者と卸・小売業者との事前契約の状況

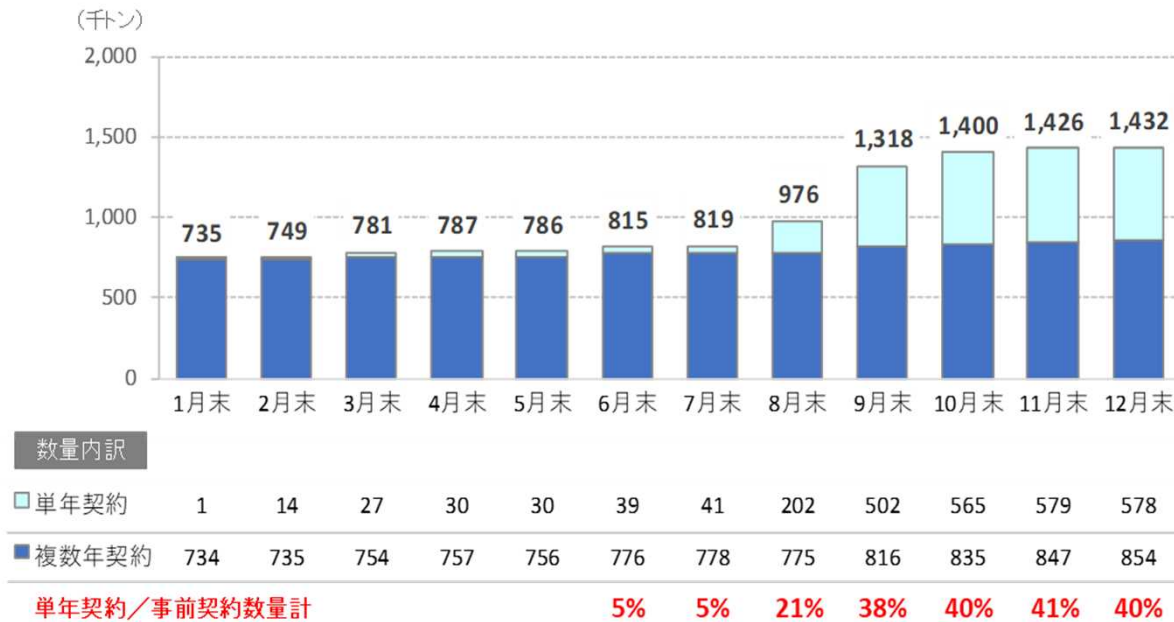
(契約の締結時期)

- ・ 複数年契約を除く単年での事前契約数量については、元年産米では12月末時点で約58万トンであるが、6月末時点では約4万トンと播種前時点での契約はわずかな状況。

(価格取決めのある事前契約の数量)

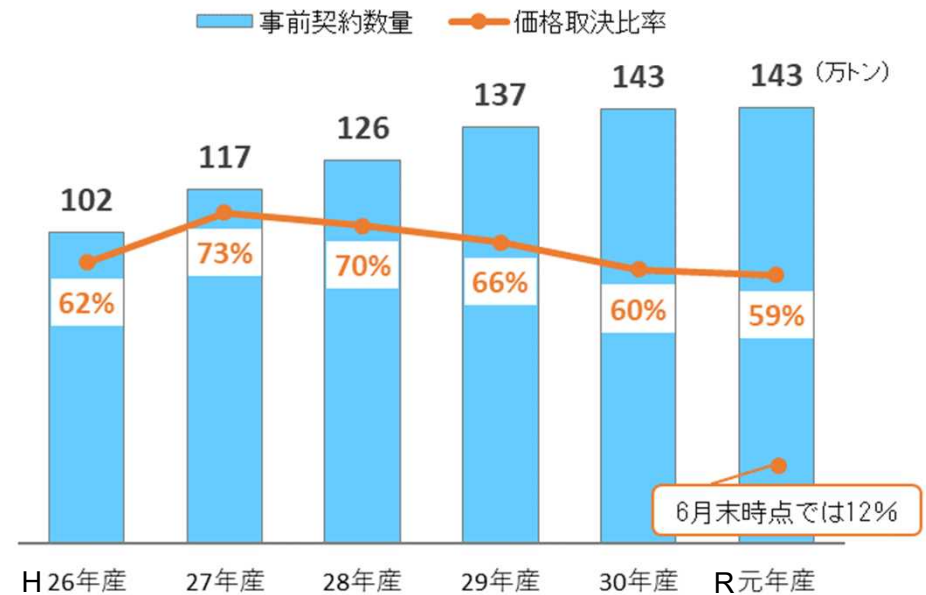
- ・ 集出荷業者と卸・小売業者との間の事前契約において価格取決めをしている数量は、元年産では令和2年1月末時点で契約数量の約6割、6月末時点では約1割。

【令和元年産の契約月別 事前契約数量の推移】(速報値)



注：「価格取決め数量」は、価格に一定の幅（基準価格の±10%の範囲内）を設けた取決めも含む。

【事前契約数量と価格取決め比率の推移】



注1:「価格取決め数量」は、基準価格の±10%の範囲内の一定の幅を設けた価格取り決めを含む。
 注2:「価格取決め比率」は、各年産の事前契約数量(30年産以前は確定値、元年産は速報値)を生産年の翌年1月末時点の価格取決め数量で除した値である。

令和2年産における事前契約の取組状況

- 令和元年産の事前契約数量は143万トン、集荷に対する事前契約比率は51%。宮城、秋田、石川、岐阜、三重、滋賀、島根、広島、香川の各県においては、集荷に対する事前契約比率は7割を超えている。
- 令和2年産の2月末現在の事前契約数量は、対前年比▲25.9万トンの50万トン。

令和元年産 事前契約数量

単位：千玄米トン

	集荷数量 ③	うち事前契約数量 ④	事前契約比率 ④/③		集荷数量 ③	うち事前契約数量 ④	事前契約比率 ④/③
北海道	326.6	208.5	64%	滋賀	45.5	34.9	77%
青森	151.4	56.7	37%	京都	8.3	6.8	81%
岩手	135.6	88.8	65%	大阪	-	-	-
宮城	167.1	126.9	76%	兵庫	40.2	13.0	32%
秋田	267.8	190.4	71%	奈良	8.4	-	-
山形	176.8	79.6	45%	和歌山	0.9	-	-
福島	167.4	46.7	28%	鳥取	22.2	4.1	19%
茨城	67.6	16.3	24%	島根	34.0	34.7	102%
栃木	125.2	74.0	59%	岡山	21.4	-	-
群馬	22.0	0.2	1%	広島	28.6	24.7	86%
埼玉	17.8	7.8	44%	山口	32.3	22.4	69%
千葉	64.6	12.0	19%	徳島	5.6	2.2	40%
東京都	-	-	-	香川	19.0	15.8	83%
神奈川県	1.8	-	-	愛媛	8.1	3.3	41%
山梨県	5.9	-	-	高知	9.6	2.1	21%
長野県	69.2	35.1	51%	福岡	42.2	26.1	62%
静岡県	6.2	1.7	27%	佐賀	28.0	-	-
新潟県	279.1	170.2	61%	長崎	9.0	-	-
富山県	89.4	38.6	43%	熊本	30.7	-	-
石川県	25.1	21.7	87%	大分	9.1	4.0	44%
福井県	67.2	9.1	14%	宮崎	12.0	-	-
岐阜県	20.1	15.0	75%	鹿児島	9.8	-	-
愛知県	30.8	13.0	42%	沖縄	1.4	-	-
三重県	24.5	20.0	82%	全 国	2,780	1,426	51%

令和2年産 事前契約数量(令和2年2月末現在)

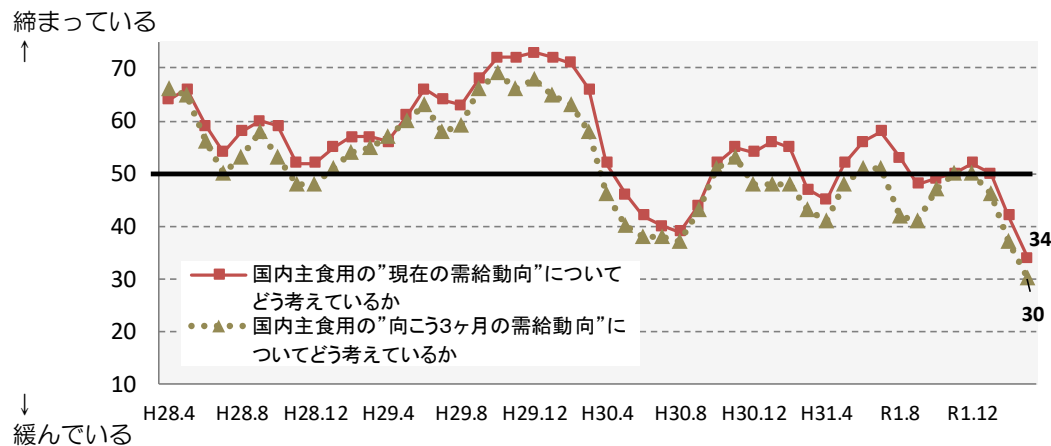
単位：千玄米トン

	(参考) 事前契約数量 31年2月末 ①	事前契約数量 ②	事前契約数量 前年同月比 ①-②		(参考) 事前契約数量 31年2月末 ①	事前契約数量 ②	事前契約数量 前年同月比 ①-②
北海道	153.7	154.6	0.9	滋賀	7.7	9.9	2.2
青森	10.2	-	▲ 10.2	京都	-	-	-
岩手	82.1	65.3	▲ 16.8	大阪	-	-	-
宮城	105.3	81.5	▲ 23.8	兵庫	13.0	-	▲ 13.0
秋田	86.4	-	▲ 86.4	奈良	-	-	-
山形	21.0	13.9	▲ 7.1	和歌山	-	-	-
福島	43.7	17.0	▲ 26.7	鳥取	-	-	-
茨城	-	-	-	島根	2.4	-	▲ 2.4
栃木	69.6	1.6	▲ 68.0	岡山	-	-	-
群馬	-	-	-	広島	-	-	-
埼玉県	-	0.9	0.9	山口	0.6	0.6	0.0
千葉県	8.1	-	▲ 8.1	徳島	-	-	-
東京都	-	-	-	香川	-	6.0	6.0
神奈川県	-	-	-	愛媛	-	-	-
山梨県	-	-	-	高知	-	-	-
長野県	31.0	25.6	▲ 5.4	福岡	0.6	0.2	▲ 0.4
静岡県	-	-	-	佐賀	-	-	-
新潟県	110.7	121.2	10.4	長崎	-	-	-
富山県	0.7	-	▲ 0.7	熊本	-	-	-
石川県	1.5	-	▲ 1.5	大分	-	-	-
福井県	9.0	-	▲ 9.0	宮崎	-	-	-
岐阜県	-	-	-	鹿児島	-	-	-
愛知県	1.5	1.7	0.2	沖縄	-	-	-
三重県	-	-	-	全 国	759	500	▲ 259

米取引関係者の判断(DI)

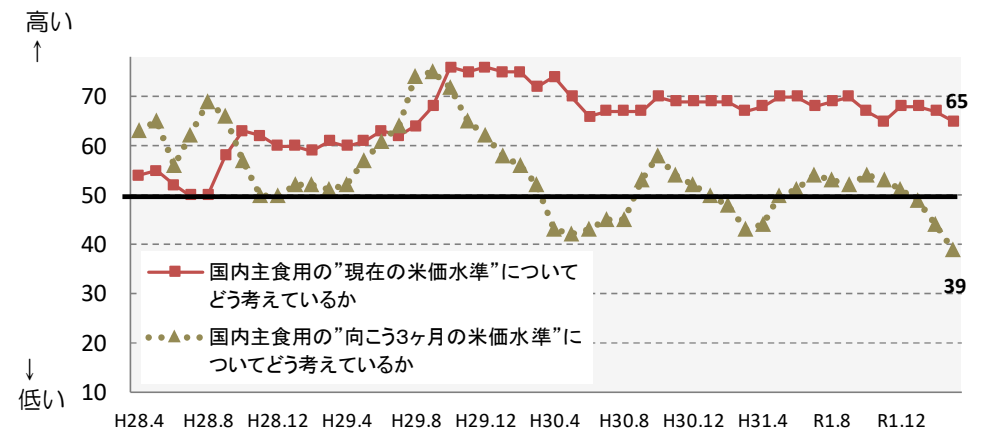
- 米穀機構の米取引関係者の判断に関する調査(令和2年3月分)によると、主食用米の需給動向の現状判断は対前月比▲8ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は▲7ポイント。
- 米価水準の現状判断は対前月比 ▲2ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は▲5ポイント。

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、
反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、
反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

令和2年産米等の作付意向について（第1回中間的取組状況（令和2年2月末現在）） ①

- ・ 元年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、増加傾向0県、前年並み傾向41県、減少傾向6県と見込まれている。
- ・ また、備蓄米14県、加工用米18県、飼料用米13県、新市場開拓用米（輸出用米等）22県が増加傾向と見込まれている。
- ・ 農林水産省としては、各産地・生産者が、今回の公表結果を参考にし、需要に応じた生産・販売に向けた取組をより一層進めていくことを期待。

【令和2年産米等の作付意向（元年産実績との比較、令和2年2月末現在）】

	主食用米	備蓄米	加工用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵粗 飼料用稲〕	米粉用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	麦	大豆
前年より 増加傾向	0県	14県	18県	13県	10県	14県	22県	13県	15県
前年並み 傾向	41県	14県	20県	22県	24県	22県	9県	22県	21県
前年より 減少傾向	6県	5県	6県	10県	9県	10県	3県	10県	9県

- 注1：令和2年産の意向（増加傾向、前年並み傾向、減少傾向）は、元年産実績との比較。
 注2：比較している主食用米の元年産実績は、令和元年12月10日統計部公表の主食用作付面積。
 注3：加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の元年産実績は、取組計画認定面積。
 注4：麦・大豆の元年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 注5：備蓄米の元年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和2年産米等の作付意向について（第1回中間的取組状況（令和2年2月末現在）） ②

(ha)

都道府県	主食用米		備蓄米		戦略作物													
	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	加工用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		米粉用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		麦		大豆	
					元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)
全国計	137.9万		32,818		46,737		72,509		42,450		5,306		4,097		97,197		86,299	
北海道	97,000	→	381	→	5,022	↗	1,974	↘	573	↘	50	↘	591	↗	33,132	↗	18,810	↘
青森	39,200	→	4,505	↗	1,162	↘	4,765	↘	652	→	6	↘	131	↗	626	↘	4,253	→
岩手	48,300	→	651	↗	1,292	→	3,724	↘	1,673	→	57	→	177	↗	3,347	→	3,519	→
宮城	64,800	→	2,167	↗	836	↗	4,871	↗	2,053	↗	72	↗	442	↗	1,700	→	9,403	↗
秋田	74,900	→	3,738	↘	8,439	→	1,601	↗	1,144	↘	391	↘	249	↗	190	↘	7,895	→
山形	56,900	→	3,561	→	3,708	↗	3,444	→	922	↗	124	→	167	↘	87	→	4,596	→
福島	60,400	→	4,800	↗	446	↗	4,623	→	1,013	↗	2	↗	63	↗	248	↗	792	↗
茨城	66,400	→	208	↗	1,286	↗	7,707	→	527	→	17	→	400	↗	4,370	→	391	↗
栃木	54,900	→	1,386	↗	2,098	→	8,414	→	1,620	→	699	↗	52	↗	7,148	→	339	→
群馬	13,600	→	114	↗	1,473	→	1,003	↘	528	↘	337	→	14	→	2,118	↘	110	↗
埼玉	30,900	→	92	↗	247	→	1,281	→	106	→	749	↗	29	↗	1,686	→	330	→
千葉	53,700	→	714	↗	1,534	→	3,914	↗	912	→	33	→	14	↗	539	↘	181	↗
東京	129	→	-	-	-	-	-	-	-	-	0	→	-	-	-	-	-	-
神奈川	3,040	→	-	-	-	-	10	→	-	-	1	↘	-	-	6	↘	4	↗
新潟	106,800	→	4,502	↗	5,626	↗	2,213	↘	383	→	1,405	↗	777	↗	177	→	3,972	↗
富山	33,300	→	2,235	↗	1,259	→	1,301	→	432	→	86	→	274	↗	2,930	↘	3,681	↘
石川	22,700	→	1,471	↘	539	→	579	→	93	→	119	→	53	→	882	→	877	↘
福井	23,600	↘	780	→	544	↗	1,163	↗	93	→	80	→	157	↗	4,612	↗	130	↗
山梨	4,810	→	-	-	67	↗	16	↗	12	↗	8	↗	-	-	57	→	94	→
長野	30,900	→	233	→	747	→	235	→	216	→	23	→	68	→	2,358	↘	522	→
岐阜	21,400	→	92	→	921	↗	2,336	↗	188	↗	27	↗	77	↗	3,298	→	339	↗
静岡	15,600	→	4	→	127	→	1,136	→	239	→	13	↗	1	↗	240	→	44	→
愛知	26,600	→	167	→	667	→	1,272	→	179	↘	73	↘	21	→	5,135	→	116	↗
三重	26,900	→	53	↗	212	→	1,613	→	249	→	96	→	66	↗	6,057	↗	281	→

(注1) 主食用米、戦略作物及び備蓄米の「2年産意向(対前年実績)」は、元年産実績と比較し、「↗:増加傾向」、「→:前年並み傾向」、「↘:減少傾向」で分類。

(注2) 主食用米の「元年産実績」は、元年12月10日統計部公表の主食用作付面積。

(注3) 加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の「元年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「元年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

(注4) 備蓄米の「元年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和2年産米等の作付意向について（第1回中間的取組状況（令和2年2月末現在）） ③

(ha)

都道府県	主食用米		備蓄米		戦略作物													
	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	加工用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		米粉用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		麦		大豆	
					元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)	元年産実績	2年産意向 (対前年実績)
滋賀	30,200	↓	264	→	981	↓	958	↑	231	↑	29	↓	168	↓	7,364	→	404	↓
京都	13,800	→	-	-	514	↑	99	↑	114	↑	7	↑	19	↑	236	↑	228	→
大阪	4,850	↓	-	-	0	→	6	→	-	-	5	→	-	-	2	→	5	→
兵庫	35,300	↓	-	-	703	↑	305	→	789	→	24	↑	3	→	1,854	↑	1,480	↑
奈良	8,450	→	-	-	20	→	30	→	38	→	25	→	-	-	64	→	19	→
和歌山	6,360	→	-	-	-	-	2	→	2	↓	0	→	-	-	1	→	14	→
鳥取	12,600	→	78	→	19	→	685	→	368	→	0	→	-	-	25	→	587	→
島根	16,900	→	25	→	298	→	794	↓	545	→	10	↓	3	→	287	→	538	→
岡山	29,300	→	183	↓	368	↓	1,076	↓	327	→	85	→	3	→	1,114	→	1,103	→
広島	22,200	→	4	→	357	↑	332	↓	552	↓	112	→	6	↓	251	↑	274	↓
山口	18,400	↓	-	-	913	↑	893	↑	318	→	15	↑	1	↑	696	↑	736	↑
徳島	11,000	→	246	↓	17	↓	476	↑	220	→	14	↓	24	↑	44	↓	12	↓
香川	12,000	→	-	-	45	↓	121	→	125	↑	10	↓	2	↑	949	↑	48	↓
愛媛	13,500	→	-	-	41	↑	288	↓	134	↑	4	→	-	-	504	↑	305	→
高知	11,300	→	2	→	64	→	880	→	236	→	14	↑	-	-	5	↓	58	→
福岡	34,500	→	51	↓	220	↓	1,969	↑	1,497	↑	209	↑	6	→	1,320	↓	7,941	↑
佐賀	23,700	→	43	↑	373	↑	558	↑	1,448	↓	14	→	5	→	153	↑	7,805	↓
長崎	11,300	→	2	→	9	→	128	→	1,218	→	6	→	-	-	75	→	312	→
熊本	32,300	→	46	→	717	→	1,175	↑	7,757	→	220	→	16	↑	714	→	2,037	↑
大分	20,400	↓	18	↑	137	↑	1,362	→	2,458	→	10	↑	-	-	543	→	1,281	↓
宮崎	14,600	→	-	-	1,478	↑	431	→	6,625	↓	20	↓	18	↑	11	↑	198	→
鹿児島	18,300	→	-	-	1,199	↑	742	↓	3,641	↓	8	→	-	-	42	↑	234	↑
沖縄	665	→	-	-	12	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注1) 主食用米、戦略作物及び備蓄米の「2年産意向(対前年実績)」は、元年産実績と比較し、「↑」: 増加傾向、「→」: 前年並み傾向、「↓」: 減少傾向で分類。

(注2) 主食用米の「元年産実績」は、元年12月10日統計部公表の主食用作付面積。

(注3) 加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の「元年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「元年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

(注4) 備蓄米の「元年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

新潟県産米をめぐる状況

- 元年産の作付面積は対前年+2,100ha、生産量は+2.3万ト。 (加工用米対前年▲2,224ha、飼料用米▲695ha、米粉用米▲527ha)
- 2年産の作付意向(2月末時点)では主食用米は前年並傾向、備蓄米、加工用米、米粉用米、新市場開拓米は増加傾向であるが飼料用米は減少傾向。
- 民間在庫量は、対前年同月+2.1万ト。なお、全国ベースの在庫も、生産量が前年に比べ減少したにも関わらず、前年同月に比べ7万ト増加(新型コロナウイルスの影響等、今後の需給動向に注視が必要)。
- 元年産の相対取引価格は、コシヒカリ(一般)が対前年+314円/60kg。

【新潟県の主食用米の作付面積及び生産量】

	作付面積	生産量	作況
29年産	100,300 ha	527,600 ト	96
↓	+4,400	+28,400	▲1
30年産	104,700 ha	556,000 ト	95
↓	+2,100	+22,900	+5
元年産	106,800 ha	578,900 ト	100

資料：農林水産省「作物統計」

【新潟県の品目別作付状況】

	主食用米	備蓄米	加工用米	飼料用米	米粉用米	WCS	新市場開拓用米	麦	大豆
29年産	100,300	5,760	6,989	4,178	2,416	370	647	246	4,640
↓	+4,400	▲3,082	+862	▲1,270	▲484	+16	+219	▲80	▲426
30年産	104,700	2,677	7,851	2,908	1,932	386	866	166	4,214
↓	+2,100	+1,825	▲2,224	▲695	▲527	▲3	▲89	+12	▲242
元年産	106,800	4,502	5,626	2,213	1,405	383	777	177	3,972

資料：農林水産省「水田における作付状況」

【新潟県の2年産の品目別作付意向(2月末現在)】

	主食用米	備蓄米	加工用米	飼料用米	米粉用米	WCS	新市場開拓用米	麦	大豆
2年産	→	↗	↗	↘	↗	→	↗	→	↗

資料：農林水産省「令和2年産米等の作付意向について(第1回中間的取組状況)」

【民間在庫量】

	31年3月末		→	2年3月末	
全国	227	+7		234	
新潟	16.5	+2.1		18.6	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：対象は、年間取扱量500ト以上の出荷業者及び年間取扱量4,000ト以上の販売業者。

【相対取引価格の動向】

	29年産		→	30年産		→	元年産	
全銘柄平均	15,595	+93		15,688	+61		15,749	
新潟コシヒカリ(一般)	16,924	+118		17,042	+314		17,356	
新潟コシヒカリ(魚沼)	20,782	+365		21,147	▲216		20,931	
新潟こしいばき	14,968	+132		15,100	+51		15,151	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：いずれも年産平均価格(元年産は速報値)。

【契約・販売状況(生産年翌年3月末時点)】

		30年産		→	元年産	
集荷	全国	2,752	+74		2,826	
	(新潟)	258	+21		279	
契約	全国	2,510	+15		2,525	
	(新潟)	248	+12		260	
販売	全国	1,268	+74		1,342	
	(新潟)	138	+4		142	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：対象は、年間取扱量5,000ト以上の出荷業者。